

命の大切さ 命をつなぐことの素晴らしさ



聖路加国際病院理事長
日野原重明



前日本看護協会常任理事
たかがい恵美子

今年10周年を迎える「葉っぱのフレディ」を日本看護協会が後援します。

日本看護協会常任理事であった、たかがい恵美子さんは

「2009フレディ・サポーター」に任命されました。

大切な命を見守る看護の仕事と「フレディ」のテーマは共鳴します。

たかがいさんと、「フレディ」を企画された日野原先生が、

命の大切さ、命の連携の素晴らしさについて語り合いました。



カーネギーホールで
上演したい!

たかがい 今年10周年を迎えるにあたって「2009フレディ・サポーター」に指名され、たいへん光榮に思っています。これから「フレディ」をどんどんPRしたいので、企画された日野原先生に是非お話を伺おうと、押しかけてきました(笑)。

日野原 嬉しいですね(笑)。「フレディ」は、近い将来、カーネギー

ホールで上演したいと思っているんですよ。

たかがい それは、素敵ですね!

日野原 この間ニューヨークに行ってきた、協力してくれる有力量なサポーターがいることを知ったんです。ただ、そのためにはお金がかかる。日本国内で募金をしないと、なんて考えているんです。

命のたいせつさ、
命の連続性

日野原 看護というのは、命を

看守る、命をケアする仕事でしょ。「葉っぱのフレディ」は、命が一人ひとりで終わるのではなく、次へと受け継がれていくという、アメリカ人の書いたものだけれど、輪廻の思想なんです。命をケアし、新しい命が生まれることをよく知っているナースが、関わってくれるとなれば、これは素晴らしいね。

たかがい そうですね。ナースの仕事は命の連続を手助けすることでもありますが、命の大切さを伝える「フレディ」を何らかの形



でお手伝いできるといういなと思っております。

原作に医療職ならではの視点をプラス

日野原 バスカリアの原作は葉っぱ博士の会話だけなんです。僕が、僕のシナリオでは、小児科医が登場するんです。その先生は、生まれたばかりの子どもが15歳になつたら、成長期の環境によってどうなるのかの研究を始める。でも、80歳になって耳が悪くなり聴診器が使えなくなったので、森にもって哲学者になつて本を書き出す。人はどこからきて、今どうあり、どこへいくのかなど、考え続けるんですね。で、話が進んで、森のなかで葉っぱたちが若者やお年寄りがいるなことをするのを眺め、葉っぱも自分たちも人間と同じだなあと思う。葉っぱが散っていくのは、人間の死と同じだなと。

たかがい ハートがありますね。

医療職ならではの、医師ならではの視点が入っているわけですね。

ナースはドクターのアシスタントではない!

日野原 話は少し変わるけど、保助看法では、看護師は「療養上の世話又は診療の補助を行うこと」となっているでしょ。今はね、医師と看護師は同格なんですよ。とくに在宅看護では、的確な判断が要求される。診断と処置ができませんよ。ナースはドクターのアシスタントではなく、一緒にやっていると意識にならないと…。

たかがい 看護職も、きちんと役割分担できるようにならないといけない、ということですね。先生、看取りについては、いかがお考えですか。ナースも、きちんと死亡の確認ができるようにならないといけないのでは、と思うのですが。

日野原 アメリカでは、末期がん患者に限って、ナースが死の宣告ができることになっていますね。そこから始めて、末期がんについてはドクターがいなくても死の診断ができるようにする。次に難病について、そして一般の病気について、というふうにするのがいいんじゃないかと思います。

たかがい 段階的に、少しずつ実績を積んでいくということですね。

日野原 以前に、北海道の学会に

出ている間に、私の患者さんが亡くなったことがあるんですが、その時、ある保健師さんに死の宣告をしてもらい、死後の処置をしてもらいました。僕はお葬式に間に合っただけで、後は形式的に死亡診断書を書きました。もちろん、これはお互いの信頼関係があればこそできることですが…。

「葉っぱのフレディ」とおして様々な世代がつながる

たかがい このミュージカルの、もう一つの素晴らしさは、子どもたちの伸びていくエネルギーだと思います。子どもたちの、思わず目を見張る存在には、本当に感動

します。先生が子ども中心の構成にされたのには、どんな思いがおありだったのでしょうか。

日野原 数年前に「十歳の君へ」という本を出したんですが、これを読んだ子どもたちが感想文を書いてくれたんです。その本の中で「寿命」と書いたんですが、そうしたら女の子が「寿命という大きな空間のなかに、私の瞬間瞬間をどう入れるかが、私の大切な仕事です」と手紙を送ってきてくれました。

たかがい 素晴らしいですね。**日野原** そうでしょ。もう10歳で、ものごとを恐ろしいほど分かっているんです。大人なんです。

すよ。そして、すごく敏感なんです。だから、子どもたちのミュージカルに、親もおじいちゃんおばあちゃんも一緒に行つて、感動するのがいんですよ。家に帰って、みんなで感想を言い合うのがいんですよ。

たかがい 「葉っぱのフレディ」とおして様々な世代がつながるといことは、まさに命の連携へとつながっていきますね。

日野原 それにしても、日本看護協会が「フレディ」の後援をするなんて、画期的なことだね。日本中の看護職が「命を愛する」ということからスタートして、動き出せば、社会は変わるよ。**たかがい** そうですよ。

